

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4 (電話) 058-370-8885		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月4日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な田園の一郭にあり、地域密着型複合施設の一翼を担うホームである。複合施設の各部門が持っている機能を活用することで、職員の負担を大幅に軽減している。そこで得られたゆとりが、「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念の実現に繋げている。職員は、自らの言動や表情が、利用者にストレートに伝わることを自覚しており、意識しながら、利用者に寄り添うケアに取り組んでいる。また、法人内の医療連携を基に、終末期・看取りに積極的に関わっている。人間の有り様、生命観など、全職員が、看取りの実体験から学んでいる。今後も、高齢者が必要としている多様なサービスを、地域と密接にかかわり、複合施設の持つ役割りと共に、身近な福祉資源として期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回改善課題であった地域との交流では、夏祭りを地域に開放し、住民参加型イベントとして、踊り、キッズダンス、太鼓、バーベキュー、餅つきなどを行い交流している。家族等への報告の中で、個別の様子についての報告は、継続課題となっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価に対しては、継続的にサービスの質を高めるための取り組みがある。全職員による、良いことも悪いことも業務上気づいたことはすべて、定期的に報告する仕組みを設けており、多様な意見を評価検討し、恒常的にサービスの質の改善を図っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議の主な討議内容として、ヒヤリハットの事例から、再発防止策が検討され、直ちにケアの現場に反映されている。また、会議は、複合施設との合同開催となっており、参加者からの疑問や要望・意見等に、それぞれの関係者が分かりやすく回答している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族会や面会時を活用し、家族から直接意見を聴く機会としている。また、意見箱の活用や定期的にアンケートに答えてもらっており、家族が気楽に意見を言えるような、信頼関係づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会に加入し、回覧板等で地域の情報を把握している。地域行事に参加したり、ホームからも情報を発信し、近隣住民をホームのイベントに招待するなど、相互に交流している。

【情報提供票より】 (平成 21 年 2 月 27 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 7 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 15 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	5,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 2 月 27 日 現在)

利用者人数	25 名	男性	3 名	女性	22 名	
要介護1	6 名	要介護2		9 名		
要介護3	4 名	要介護4		3 名		
要介護5	3 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	85 歳	最低	74 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人フェニックス、鵜沼中央クリニック
---------	------------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者が穏かで、心豊かなに安心な暮らしを支えるために、「ゆったり、楽しく、寄り添って」とする事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が、理念の意義を共有し、隣接する同法人の地域密着型複合施設と緊密に連携しながら、理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板で地域情報を知ることができ、ホームの情報も発信している。左義長などの地域行事に参加したり、ホーム恒例「夏まつり」のイベントに、大勢の近隣住民を招待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が、意見を出しながら自己評価を行い、外部評価の結果に対しても、全員で討議しながら改善に向けて取り組んでいる。前回の改善課題であった「服薬ミス」の再発防止が改善され、実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月毎に行われ、ヒヤリハット報告、事業報告、行事計画、参加者の意見交換等が行われている。災害時の地域協力体制についても討議が継続されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢福祉課担当者とは、何でも相談できる良好な関係を築いている。運営・制度上の疑問点には、迅速な回答が得られることが多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に、ホームでの暮らし振りを伝えている。何か変化があれば、直ちに電話で連絡し、遠方の家族には定期的に電話で報告している。	○	家族には、担当職員の名前が伝わっていない場合もあり、書面・写真等の報告様式を工夫し、毎月送る金銭報告に、近頃の利用者やホームの様子等を添えることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、面会時や家族会で聞く場合が多い。また、定期的にアンケートを取り、対応する仕組みを設けている。家族の不安である終末期の相談等には、十分に話し合いを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	直近では、出産のため1名の離職者があったが、異動は最小限となっている。代わる場合は、職員1人に利用者2名の担当制を取っており、ゆったり時間を掛けながら、馴染みの関係作りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には、新入職員の研修制度がある。さらには、日常の業務の中で、先輩職員から新人職員にマンツーマン指導を行うエルダー方式という職員を育てる体制がある。また、各種の資格取得には、法人の援助制度がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者および岐阜県グループホーム協議会を通じて呼びかけ、勉強会・公開講座を2ヶ月毎に開催し、法人独自の交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の取り組みはなく、デイサービスやショートステイ体験からの入居の他、自宅から直接入居することも多い。入居すること事体に抵抗のある人には、ホームはどのようなところで、どのように過ごすのか、大きく紙に書いて説明し、気持ちが通じ合ってから、サービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、洗濯、食器洗い、掃除などの家事を自主的に担い、職員はサポート役に回っている。昔話の時は利用者の表情が輝いており、時代背景や話題の「つながり」等知識を豊かにするために、職員は利用者から多くの知識や体験を学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や会話の中から、思いの把握に努めている。利用者の多くは、話好きであり、孤独にしたり、孤立しないように、それぞれの思いに寄り添っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を聴き、ケア会議で検討しながら介護計画を作成している。その際には、医師、看護師、栄養士等の関係者とも話し合い、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の心身状態は、毎日モニタリング表に記録し、変化があれば本人・家族と話し合い随時見直している。また、毎月のケア会議の結果での見直しや、3ヶ月毎に定期的見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携による医師の往診体制と、24時間の訪問看護体制があり、本人・家族の安心に繋げている。重度化や終末期に対し、法人内の施設、希望によっては法人外の施設や自宅を選択できるよう家族に情報を提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の多くは、母体法人医師が、かかりつけ医となっている。毎週の往診に加え、月2回は、院長（理事長）の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期には、積極的に対応する方針がある。入居時に説明を行い、重度化の進行した段階では家族と十分に話し合い、職員間で共有している。ホームで看取る場合には、承諾書を交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室には許可を得てから入ることや、プライドに配慮した言葉かけを徹底し、信頼関係を大切にしている。個人情報等の記録物は、所定の場所で安全に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその日の気分で、楽しく過ごせるように支援している。隣接施設へ出かけたり、ぬり絵、手芸、畑仕事、買い物、テレビ観賞、会話などで自由に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・片付けは、利用者の役割りとなっている。調理された食材が持ち込まれているが、月に1度は、自由メニューとして、全員参加の食事作りを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隣接の複合施設で、週2回の入浴支援をしている。ホームにある浴場は使われていないが、身体状態に応じ、一般浴、半機械浴、機械浴を利用している。機械浴には、全く抵抗もなく、楽しみとなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や経験を活かして、食器洗いや中庭のサボテン管理などの役割や、ぬり絵、編み物、カメラ、俳句、野鳥観察など楽しい過ごし方を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接する複合施設での行事に出かけたり、喫茶コーナーや運動機器の体験に出向いたり、ホームに閉じこもらない支援をしている。周辺の田園地帯を廻る散歩は、日常的に行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、職員の見守り体制ができており、利用者への圧迫感や弊害が生じない取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の指導の下で誘導訓練、消火訓練、設備の取り扱い、通報訓練などが行われている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は管理表に記録し、全職員で共有している。栄養が計算され、個々の嗜好や状態に合わせ、食べ残しの少ない適量を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造づくりの板張りで、木のぬくもりが感じられる広い空間がある。食堂は広く、床暖房で、窓越しには季節を感じる景観がひろがり、くつろげる長椅子が適所に設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの小物、家具類が持ち込まれている。家族の写真や作品を飾り、趣味に使う道具を揃えたり、居心地の良い居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。